

水稻白穂の實態に就いて

農林省大分農事改良實驗所 吉村清一郎

本調査は、昭和22年秋、福岡縣八女郡羽犬塚町農林省農事試驗場九州支場の圃場に發生した白穂の實態に就き少しく調査した所を取纏めたものである。

調査月日、第一調査、9月22日～30日切取(一定圃場より)。第二調査9月17日切取(あちこちの圃場より)調査した白穂數、第一調査4847、第二調査391、計5238、

白穂を生ずる昆虫は、三化螟蟲、二化螟蟲、大螟蟲(イネヨタウ)、ヲガサハラクビキリバツタ、の4種である。

昆虫別白穂の比率は、三化螟蟲73.1%二化螟蟲14.9%大螟蟲3.6%ヲガサハラクビキリバツタ8.4% 計100%

栽培様式と白穂發生率

	白穂總數	出穂數	白穂發生率	備考 總白穂發生率 2.49%
直播區	543.7	18977.8	2.86%	
移植區	363.4	19214.8	1.96%	

(一畝當り)

直播區は、移植區に比べて出穂數は少く白穂は多く、白穂發生率は0.9%だけ高い。

栽培様式と昆蟲別白穂

三化螟蟲白穂が直播區 375.0 移植區 168.9

二化螟蟲白穂が直播區 43.3 移植區 117.4 (以上何れも
1 畝當)

更に各區毎に昆蟲別の白穂の百分率を求めて比較すると
直播區では二化螟蟲の白穂の割合が、7.9%であるのに移
植區のそれは30.7%と言ふ高率を示してゐる。之に反して
三化螟蟲白穂は、直播區68.5%移植區44.2%である。

要するに移植區では直播區に比べて三化螟蟲の白穂が少
くて二化螟蟲の白穂が多い。その他昆蟲による白穂は、
兩者餘り大差はない。

かゝる白穂の實態調査は、各地でなさるべきであつて白
穂防除対策を講ずる場合とか收穫高を豫想する場合とかの
基礎資料となるものである。